

平成28年 県政10大ニュース

広報課

今年の主な県政の動き（事業、出来事等）やそれに関わる重要な出来事の中から、将来に向けて夢や希望を与える出来事、県民幸福量の最大化に資する出来事、県政課題の解決に向けて取組みを積極的に進めたものを選びました。

◎「平成28年熊本地震」発生〔4月〕

4月14日及び16日の二度にわたり、震度7の地震が発生。4,200回を超える余震が続く。住家被害は約17万8千棟に上り、避難者は最大で18万人を超えた。農林水産業、製造業、観光業をはじめとする地域経済や公共施設も甚大な被害を受け、熊本城や阿蘇といった熊本の宝も被災。

本震の日が蒲島県政3期目のスタートであり、「復旧・復興の3原則」を基本に、県民の総力を結集し、災害対応にあたった。

その後も、豪雨や阿蘇中岳の爆発的噴火等、連続する災害に対応する年となった。

◎天皇皇后両陛下被災地御見舞い〔5月〕

熊本地震による被災状況御聴取及び御見舞いのため、天皇皇后両陛下が御来熊。被災者一人一人に温かい励ましのお言葉をかけられた。

また、日本国内はもとより世界各地から熊本へ数多くの支援をいただいた。

◎「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」及び「熊本復旧・復興4カ年戦略」の策定〔8月、12月〕と復旧・復興の取組み

一日も早い被災者の生活再建と経済・産業の再生へ向けて、復旧・復興の取組みを着々と進めるとともに、復旧・復興の道筋と熊本が目指す将来像を示し、被災者の生活再建と被災地の創造的復興を図るため、「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」を策定。熊本地震からの創造的な復興と、熊本の更なる発展へ向けて本格始動。

また、復旧・復興プランの「概ね4年間の取組み」に、地方創生に関する施策などを加えた、新たな県政運営の基本方針となる「熊本復旧・復興4カ年戦略」を策定。

【主な取組み】

- 被災者の住まいの確保等
応急仮設住宅4,303戸が完成
被災者の住宅再建を後押しするため、「くまもと型復興住宅」のモデル住宅を建設
被災者の孤立を防ぎ、コミュニティづくりを図るため、「みんなの家（集会施設）」を整備、被災15市町村において地域支え合いセンターを設置
- 地域産業の復旧
グループ補助金等を活用した企業復旧の動きが本格化
「九州ふっこう割」を活用した旅行需要の早期回復
観光産業の立て直し及び基幹産業化を図るため「熊本観光復興会議」を開催
被災農業者の農舎・畜舎等の復旧による営農の再建への支援
大豆等への作目転換による被災農地での営農継続・再開
被災農地の単なる原形復旧ではなく、未来につながる基盤整備（大区画化等）を実施
- 災害廃棄物等の処理及び公費解体の推進
- 阿蘇地域への主要アクセス道路の復旧
国道57号の復旧事業として整備している北側復旧ルートについて、11月に一部工事に着手
県道熊本高森線俵山バイパスのトンネル補修工事が年内完了し、12月24日に暫定開通
阿蘇大橋の架け替え位置を国が公表

（裏面有り）

・熊本都市圏東部地域における創造的復興の推進（「大空港構想 Next Stage」の策定）

阿蘇くまもと空港を熊本地震からの創造的復興のシンボルとして、運営を民間に委託する「コンセッション方式」の導入による国内線・国際線ターミナルビルの一体的整備・耐震化を目指す方針を表明。ビル建設に当たり、設計の段階からコンセッション方式を導入する取組みは全国初。

県道熊本高森線の4車線化の方針を決定

◎くまモン、復興のシンボルとして活躍し、キャラクター好感度が全国1位【通年】

熊本地震以降、活動を自粛していたくまモンが、こどもの日から、被災した子どもたちを励ます等、活動を再開。また、県では、支援への感謝と復興に向けた決意を宣言するシンボルマークを制作。県民や県内事業者の復興の後押しにつながった。これらの活動が注目され、キャラクター好感度調査で全国1位となった。

◎「国立公園満喫プロジェクト」に“阿蘇くじゅう国立公園”が選定【7月】

世界水準のナショナルパークを目指す「国立公園満喫プロジェクト」の先導的モデル実施箇所の一つに、“阿蘇くじゅう国立公園”が選定された。世界中の人を魅了する取組みを計画的、集中的に実施するためのステップアッププログラムを策定。

◎「天草の崎津集落」の世界文化遺産への国推薦及び「八代妙見祭の神幸行事」ユネスコ無形文化遺産登録決定【7月、9月、12月】

7月に、「天草の崎津集落」を含む教会遺産が世界文化遺産への国推薦候補に選定。9月に「天草」を含めた名称「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に変更された。

12月には、「八代妙見祭の神幸行事」を含む「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録が決定。

◎インドネシア・バリ州とのMOU締結【11月】

バリ州知事一行が来熊し、国際交流促進に関する覚書を締結。民間交流、農畜産業・水産業及び観光等の交流、大学間交流等を促進する。バリ州との交流を通じて、地域活力の向上を図り、「世界とつながる新たな熊本」を創造。

◎国際スポーツ大会の開催に向け準備が加速【11月】

ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地誘致といった2019年から2020年にかけて熊本で開催される国際スポーツイベントに向けて準備を加速。これらの熊本国際スポーツ大会を震災復興の一つの目標地点（マイルストーン）として、熊本の復興の姿や感謝の心を世界に発信していく。

また、「おもてなし向上プロジェクト」の展開により、インバウンド受け入れ体制の強化を推進。

◎熊本時習館海外チャレンジ塾から初の海外難関大学進学者が誕生【通年】

「熊本時習館海外チャレンジ塾」から海外難関大学（ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、プリンストン大学、コーネル大学）に合格し、マサチューセッツ工科大学に進学する塾生が誕生。海外での夢の実現を目指す若者のチャレンジを後押し。国際的に活躍するグローバル人材の育成がまた一步前進。

◎水俣病公式確認60年を迎えての様々な取組み【通年】

水俣病の公式確認から60年を迎え、民間団体等による地域の再生・融和や情報発信の取組み、水俣病資料館の情報発信機能の更なる強化に向けた取組みや水俣環境アカデミアの開設にあたり支援等を実施。

プラス1項目

◎鳥インフルエンザ発生一迅速な初動対応で封じ込めへ【12月】

県内2度目となる鳥インフルエンザ発生。4原則に基づき、関係機関との総力を結集し、封じ込めに向け対応。